

# 邦楽大会

第四十八回

第十八回徳島県民文化祭分野別フェスティバル



徳島県民文化祭

平成二十八年十月九日(日)  
十一時三十分開演(十一時開場)  
あわぎんホール  
(徳島県郷土文化会館)

主催 徳島県邦楽協会  
徳島県民文化祭開催委員会  
後援 徳島県教育委員会  
公益財団法人徳島県文化振興財團  
徳島新聞社  
四国放送  
NHK徳島放送局  
ケーブルテレビ徳島(株)



徳島県邦樂協会



## ごあいさつ

徳島県邦楽協会会長  
大 西 晴 一 一

本日は、第四十八回邦楽大会にご来場いただき誠にありがとうございます。

会員一同心から感謝申し上げます。

徳島の伝統芸能は、同県で二度という異例の国民文化祭開催を経て、あわ四大文化を集大成し、文化立県徳島へと大きく発展を遂げて参りました。昨年からは、県民文化祭に中学校総合文化祭が新しく加わり、次代を担う子ども達の活動の場が開かれました。また本年度の県民文化祭「音楽文化が息づくまちづくり」では、「邦楽」「ジャズ」「クラシック」が「あわ三大音楽」として位置づけられ、邦楽や和文化の次世代を担う若手の活動の場が設けられています。そのような中、当協会におきましても、会員の活動はもとより、次世代を担う子ども達の育成を掲げて、大きく進化をしている所でございます。

邦楽大会の実施・発展のみならず、(公財)徳島県文化振興財団とも協力関係を構築し、邦楽ルネッサンス事業に参画する等、充実した活動を続けています。

更に今後、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック開催に伴つて展開されるカルチャーラルオリエンピアードにおいては、文化的プログラム二〇万件を目標に、より多くの国民が新しい形で文化活動に参加することを目指しています。伝統の市松模様とジャパンブルーを配して、日本らしさを描いたエンブレムも発表されました。阿波藍・徳島を連想させる無限性を秘めた日本にふさわしい作品と感じています。

当協会も、これ等に関連した文化的事業の活動の推進を念頭に、流派やジャンルを超えた演奏活動や開発教材を活用した教員対象の講習会、様々なワークショップ等の事業等を通して、文化立県徳島の一助となる様精進すると共に、伝統芸能の継承者育成と次世代を担う子ども達の育成に誠心誠意取り組んで参りたいと存じます。

本日ご来場くださいました皆様どうか変わらぬご支援を賜ります様お願い申し上げ、ご挨拶と致します。

## 祝 辞 飯 泉 嘉 門

第十八回徳島県民文化祭分野別フェスティバル「第四十八回邦楽大会」が、盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

前身となる徳島県芸術祭をリニューアルし、平成九年にスタートした「徳島県民文化祭」は、優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供することも、各文化芸術活動の裾野拡大を通じて、地域の文化振興を図ることにより、県民の皆様の誇りや心豊かな暮らしを創出することを目的として開催しております。今回で第十八回目を迎えます。

また、この「邦楽大会」は、昭和四十三年の初開催以来、「徳島県芸術祭」及び「徳島県民文化祭」と共に回を重ねていただいており、古くから日本人の心を癒やしてきた「邦楽」の継承・発展に大いにご貢献されたとともに、広く「あわ文化」の振興に寄与いただいております。そして現在、二年後に控えた記念すべき第五十回大会に向け、ご準備を開始されるなど、一層活発な活動を展開されており、徳島県邦楽協会の皆様のたゆまぬご熱意とご努力に、深く敬意を表する次第であります。

さて、日本選手の活躍が記憶に新しいリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが終了し、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックに向けた四年間がスタートいたしました。そして、その文化プログラムのキックオフイベントとして、文部科学省が位置づけた「スポーツ・文化ワールドフォーラム」が、十月十九日から開催されます。

そこで、徳島県におきましても、この四年間をさらなる「あわ文化」の発展に向けた絶好の機会と捉え、全国初、二度の国民文化祭開催で確立した阿波藍、阿波人形淨瑠璃、阿波おどり、ベートーヴェン第九の「四大モチーフ」、また、新たに定めた邦楽、ジャズ、クラシックの「あわ三大音楽」を核に、今後、徳島の強みを活かした文化プログラムを積極的に展開し、世界中の人々に大きな感動を与えることができるよう取り組んで参ります。徳島県邦楽協会の皆様には、なお一層のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、「第四十八回邦楽大会」の開催にあたり、ご尽力いただきました関係の皆様に深く敬意を表しますとともに、本事業のご成功とお集まりの皆様のますますの健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げまして、お祝いの言葉いたします。

平成二十八年十月九日



### 出演団体（一般の部）

- 嘉風会（観世流）
- 錦心流琵琶全国一水会徳島支部
- 岳芯流吟詠会
- 日本当道音楽会所属古都和会
- 東会
- 竹保流尺八徳島県支部
- 喜多流喜陽会
- 渭山流吟剣詩舞道至道会
- 美乃里会
- 琴古流尺八美風会徳島支部
- 都山流徳島県支部橘会
- 薩摩琵琶錦心流旭水会
- 浄心流龍峰会
- 和光流東山吟詠会
- 長唄稀綾會
- 都山流徳島県支部
- 日本当道音楽会所属朱音会
- 佳趣会
- 阿波ぞめき渦の会

### 出演団体（子ども・学生の部）

- 竹保流尺八徳島県支部
- 揚心流日本朗詠会
- 渭山流吟剣詩舞道至道会
- 日本当道音楽会所属朱音会
- 沢井箏曲院
- 欽水流吟詠会
- 長唄稀綾會
- 都山流徳島県支部

（出演順）

司会 宮崎 文子  
記録 阿部 藤風

1 謡曲 嘉風会（觀世流）

仕舞「桜川」

竹原千代地謡橋本ハル子  
(桜子の母)

2 三曲

竹保流尺八徳島県支部

古典本曲

明暎対山派九州鈴慕

3 琵琶

錦心流琵琶全國一水会徳島支部

須田春園作

五条橋

4 吟詠

岳芯流吟詠会

徳川景山作

水戸八景

薩摩琵琶芝原正水

尺八工藤隼輔

(中学校一年)

舞長早近  
谷田雲藤  
野岳紅瑙  
文心心心

5 吟詠

揚心流日本朗詠会

作者不詳

桜花の詞

吟谷谷  
亞央唯  
美賴  
(高等学校二年)  
(中学校一年)  
(小学校三年)  
(高等学校二年)

依津希  
文哉  
(高等学校二年)

6 三曲

日本当道音楽会所属古都和会

都山流徳島県支部橘会

野村正峰作曲

編曲京鹿の子娘道成寺

第一箏仁津安宮多喜廣吉  
木田田武木崎  
雅幸古古聖都乃  
子風都浩風夕華  
三絃

財松杉湯人吉渡万湯仁  
賀本野浅見岡川石浅木  
和琴敬眞繁都惠都古都美  
美江子知子照都節風美

尺八

市中計天敷貝渡松山村  
原村盛野内出辺田上上  
峻信卓紅韶光藍太明聖  
山山山山山山山山山

休憩

7三曲  
古典本曲  
明暎対山派 筑紫鈴慕

竹保流尺八徳島県支部

尺八工藤菜緒（小学校六年）

古典本曲

（小学校六年）

8俗曲・端唄 東会

作者不詳

奴さん

作者不詳

深川

9吟詠

渭山流吟劍詩舞道至道会

上杉謙信作

九月十三夜陣中の作

剣舞吉田嘉峰（小学校四年）

糸日本橋のあ榮

杵杵屋佐栄篠  
佐世篠

唄  
福高島佐大池神  
岡畑藤西田原  
直マ裕久秀小枝常  
美ミ美子子経

10三曲  
竹保流尺八徳島県支部  
古典本曲  
明暎真法流 吉野恋慕

尺八

岩吉近中畑清兼  
野岡藤田水松  
竹瑞鈴笏笙露劉  
仙保保保保保保

工工工和岡佃  
藤藤藤田田  
澄菜隼英莫伸  
江緒輔作規道







## 17 三 曲

都山流徳島県支部 橋会  
日本当道音楽会所屬古都和会

宮城 道雄 作曲

## 北海民謡調

## 18 長 噴

長唄稀綾會

二世瀬川如臯 作詞  
四世杵屋三郎助 作曲

## 供奴

## 19 琵 琶

薩摩琵琶錦心流旭水会  
竹保流尺八徳島県支部

作者不詳 浜 旭 作曲・構成

## 伏見の吹雪

尺 琵 琶  
八 琶

清 浜

水

露 旭

保 水

唄 丸 岡 蒼 輔 (小学校一年)

尺 八  
八 村  
渡 松 山  
出 辺 田 上  
光 藍 太 明 聖  
山 山 山 山

市 中 計 天 蔽  
原 村 盛 野 內  
嶮 信 卓 紅 韶  
山 山 山 山

十七絃 第Ⅱ箏  
吉 仁 多 喜 津 宮 廣 安 仁  
崎 木 田 武 木 田 木  
夕 雅 聖 幸 古 都 古 都  
華 子 風 風 古 都 浩 風

## 20 吟 詠

淨心流龍峰会

大江 敬香 作

## 近江八景

吟 筝 吟  
室 山 小 佐 岩 栗 嵯  
田 山 木 谷 本 峨  
志 龍 龍 龍 龍 龍  
津 雪 清 歳 燐 彩 煌

加 清 加 浜 藤  
賀 美 水 藤 本  
白 清 蔦 龍 龍  
峰 峰 峰 緑 正

## 21 吟 詠

和光流東山吟詠会

松口 月城 作

## 黒田節入り名槍日本号

## 22 三 曲

山本 邦山 作曲

沢井箏曲院

## 上 無

箏 上 甲 ちひろ (中学校一年)



## 鹿の遠音

古典本曲

尺八庄野文哉（高等学校二年）

徳島県邦楽協会役員

30 民謡 阿波ぞめき渦の会  
福島 俊治 編曲

三味線 福島俊治

おどり 橋 福 本 島 奈 央 子 河 河 野 洋 子 尾 嶋 美 久 美 子 松 浦 京 子 金 垣 和 代 井 田 富 子 小 林 有 里 和 美 造